

家族以外の縁が 自殺予防の力に

上智大でシンポ

12/16 「『生きつらさ』について一緒に考えよう」と題したシンポジウムが14日夜、千代

田区の上智大学で開かれ、約770人が参加した。

「いのちのフォーラム」などの団体が主催。1年前にうつ病の治療を始め、4回自殺を図ったという元会社員の男性が体験を語った。「精神科の薬を見つけた親に厳しく叱責された。一方で、ベランダで首をくくろうとしていたとき、通りかかった近所のおばちゃんがかずか入ってきて『死んじやだめでしょ』と助けてくれた。家族がいても無縁になるし、縁は血縁だけじゃない」と訴えた。

討論では、結婚しない若者が多数になった現状を踏まえ、家族以外の縁もつくる大切さなどが語られた。今年3月に都内で開かれた集会「自殺と貧困から見えてくる日本」に、鳩山首相(当時)が来て盛り上がった。自殺対

策に取り組むライフリンクの清水康之代表は「政治主導で自殺対策もにわかには動かないかと思ったが、今は夢から覚めた。コツコツやるしかない。自死を語る場をつくっていく。自殺対策の根本は生きる支援だ」と話した。